

ジオスペース館だより

★ 今月の星もよう ★

9月中旬の夜8時頃の星空を見てみると、南の天頂には《夏の大三角》がよく見えています。その三角の2つの頂点「こと座」のベガと「わし座」のアルタイルを結んで、南の方に伸ばしたところに、逆三角形に並んだ3等星以下の暗い星が連なる「やぎ座」が輝いています。暗い星ばかりですが、周りの星はもっと暗く、さらに今年の秋は木星と土星が「やぎ座」にあるため、とても探しやすくなっています。木星は12年、土星は30年かけて太陽の周りを1周するので、同じ星座で並ぶのは約60年に1回。こんなに分かりやすい「やぎ座」が見られるのは、次回は2080年になります。

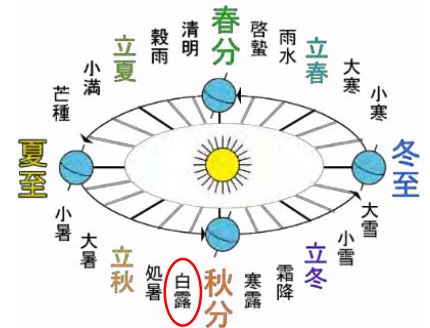
「やぎ座」は秋の星座ですが、ギリシャ神話の牧場の神様パーンの姿だといわれています。星座絵を見ると、上半身はやぎ、下半身は魚という、奇妙な姿をしています。これは神様たちのパーティに恐ろしい怪物が現れ、パーンは魚に変身して逃げようとしたところ、あわててしまい上半身はやぎのまま、下半身だけが魚という姿になったのだそうです。

ステラナビゲーター11を使用して作成



★ 二十四節気・9月7日は《白露》

1年を24等分し、季節を表す二十四節気。9月上旬の節気は《白露》と呼ばれ、毎年9月8日頃になります。《白露》とは、草木に白い露が見られるようになる時期を意味します。夜中に大気が冷えて、草木に朝露が降り始める頃で、朝露が光って白い粒のように見えるようすを表しています。暑さも和らぎはじめ、秋らしさが感じられる季節です。



二十四節気と、太陽と地球の位置関係

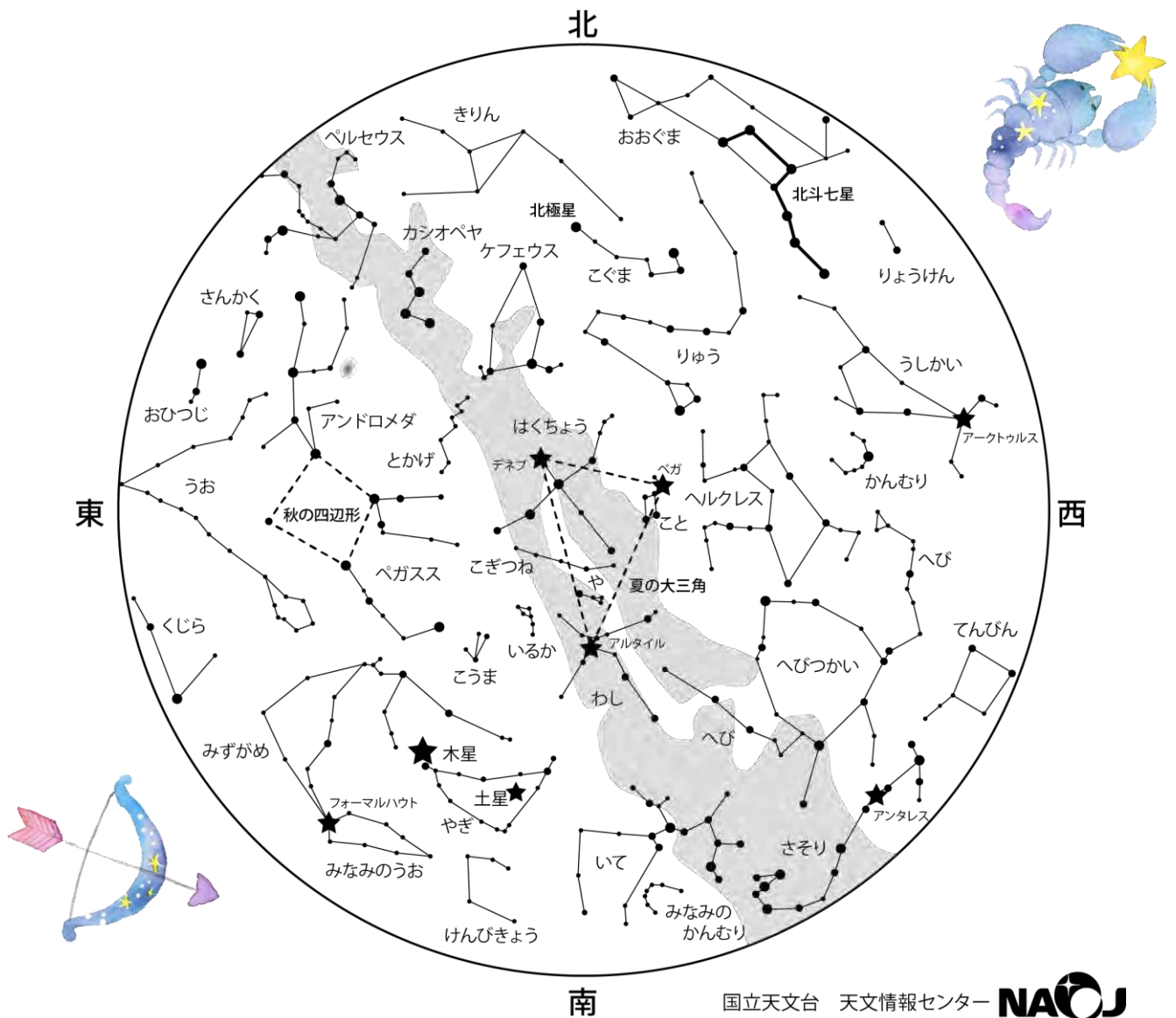
★ 日の入り後の西空に注目！ 月が金星に接近

9月に入ると、日の入り後、西の空の低いところに、宵の明星・金星が明るく輝いています。約マイナス4等の明るい輝きなので、低空でもとても自立って見えます。また、9月10日には、金星の上に細い月がかかります。月や金星は、スマートフォンのカメラなどでも簡単に撮影することができるので、地上の風景のシルエットを生かして、低い空にかかる金星や月と一緒に撮影するチャンスです。ぜひトライしてみてくださいね。



- ★ 9月のプラネタリウムの内容につきましては、別刷りの「投影案内」をご覧ください ★
- ★ プラネタリウムのお休み 9/6(月)、13(月)、15(水)、21(火)、24(金)、27(月)
- ★ 新型コロナウイルス感染症対策で、入場定員を減らして投影しています。

9月上旬午後8時30分頃の星空



★ 9月上旬の主な天文現象

7日(火) ● 新月 白露	13日(月) ケレスがアルデバランに接近
9日(木) 小惑星パラスがうお座で衝	14日(火) 上弦 水星が東方最大離角
10日(金) 細い月と金星が並ぶ	15日(水) 海王星がみずがめ座で衝

★ 宇宙ステーション(豊川での主なデータ 9/1~15) ※ 下記時刻は、予想値です

◇ 9月10日(金) [見やすさ ◎]	4:50 北西	~	4:57 東南東
◇ 9月12日(日) [見やすさ ◎]	4:53 西北西	~	4:59 南南東
◇ 9月13日(月) [見やすさ ◎]	4:07 北西	~	4:12 南東
◇ 9月15日(水) [見やすさ ◎]	19:12 南西	~	19:16 東北東

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。
飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。